



学校教育目標 基本目標 愛校心を持つ、たくましく生きる力を身につけた生徒の育成

具体目標 自ら意欲的に学び、正しく判断できる生徒（知）かしこさ 思いやりと感謝の心を持ち、主体的に行動できる生徒（徳）やさしさ あかるく健康で活力ある生徒（体）たくましさ

目指す学校像

- ※生徒が心も体も大きく成長し、生きる力を身につけ、夢を実現できる学校→「生徒が通って良かったと思う学校」
- ・生徒が主体となり、自ら意欲的に学習に取り組む学校
- ・安心・安全で、いじめ等適切に対応し保護者や地域から信頼される学校
- ・一人一人の生徒の成長のために教職員がチームとして全力で支援する学校
- ・一人一台端末(タブレット)を有効活用した教育活動を推進する学校
- ・「新しい生活様式」を踏まえ、生徒の成長につながる教育活動を行う学校

目指す生徒像

- 「かしこさ、やさしさ、たくましさを培い、学校に誇りを持ち、仲間とともに困難を乗り越えることのできる心身ともにたくましい生徒」
- ・かしこさ、やさしさ、たくましさの知・徳・体をバランス良く備え、学校に誇りを持ち(愛校心)、一人では難しくても、仲間とともに力を合わせて困難を乗り越えることのできる心身共にたくましい生徒

目指す教師像

- ・高い倫理観と規範意識を備え、師弟同行の精神を持ち、実践力あふれる教師
- ・専門的な知識や技能を高め、主体的・対話的で深い学びを実践できる教師
- ・生徒を大切に、指導への情熱を持ち、生徒の可能性を伸ばすことができる教師
- ・組織の一員としての自覚をもって連携・協力するとともに、互いに高めあえる教師

『生徒とともに教師が群馬県一輝く学校』

学校経営の基本方針

学校は、生徒たちが自らの成長と自己実現を目指し、安心して学ぶことのできる場でなければならない。これが実現できたときに信頼される学校、魅力のある学校、すなわち『群馬県一輝く学校』に近づくと考える。学校教育目標である「愛校心を持つ、たくましく生きる力を身につけた生徒の育成」のために3つの具体目標の達成に向けて学校経営を行う。

自ら意欲的に学び、正しく判断できる生徒

- ・学習指導要領で求める資質・能力の育成に向けた教育課程の編成・実施
- ・一人一台端末を有効活用し、実験・観察、問題解決的・探究的な学習を重視する授業実践
- ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」等を参考にし『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業実践と授業改善
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るために一人一台端末を有効活用した授業づくりの推進
- ・指導と評価の一体化の充実
- ・端末機器の活用のルールづくり及びICTリテラシーの向上
- ・自己実現への過程を大事にするキャリア教育の推進

かしこさ

思いやりと感謝の心を持ち、主体的に行動できる生徒

- ・生徒理解に基づく一人一人の成長を促す指導の充実
- ・生徒が自ら考え、企画、運営し、一体感、達成感、充実感などの心が揺れる思いを味わう学校行事の実施
- ・『千代田中に通って良かった』と思える生徒主体の学校いじめ防止活動
- ・全教職員で取り組む、道徳の授業実践と道徳教育
- ・教職員自身が高い人権意識を磨き、一人一人の人権を大切に教育の推進
- ・生徒評議委員会の開催とあいさつ運動(部活のない毎週水曜日の放課後)の実施
- ・基本的生活習慣(凡事徹底、挨拶先手)、学習規律、礼儀やマナーの確立

やさしさ

あかるく健康で活力ある生徒

- ・学習活動における日常的な感染症対策の徹底と活動の実施
- ・学校、学級が楽しく、安心安全であり、達成感が得られる居場所づくりの工夫
- ・生徒一人一人の状況を早期、適確に把握して組織的な対応ができるよう、教育相談サポート体制の充実、関係機関との連携(相談室、ほっとルーム、保健室、適応指導教室ひだまり、SC、SSW等)
- ・生徒の自己実現を図るため、自己指導能力の育成をめざす生徒指導
- ・何事にも諦めずに『夢を求めて』チャレンジする活力、心意気の育成
- ・体とともに、苦しさや辛さに打ち勝つ心を育てる学校、学年行事の企画と実施

たくましさ

今年度の重点

生徒が自ら学習し、生きる力を身につけ、夢を実現できる活動の設定

- ・生徒が自ら一人一台端末を有効活用し、実験・観察、問題解決的・探究的な学習を重視し、生きる力を身につけられる授業実践を行う。
- ・生徒が自ら考え、企画し、運営するさまざまな行事、活動を重視する。
- ・生徒が自ら『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実を図り、資質・能力を育成するために一人一台端末を有効活用する。
- ・生徒が自ら将来を見据え、自己の生き方を真剣に考え、『夢を実現できる』進路指導、進路選択、自己実現のためのきめ細かなキャリア教育を推進する。
- ・生徒主体の生徒会活動・専門委員会活動を重視する。
- ・生徒の自主性を活かし『夢を実現する』ための効率的な部活動の運営を行う。

教育相談・生徒指導・特別支援教育の組織的な対応

- ・生徒指導部会、教育相談部会だけでなく、生徒の気になる様子を見逃さず、タイミングが遅れることなく、全教職員で情報共有し、組織として対応する。
- ・不登校傾向生徒への対応は、生徒、保護者の気持ちに寄り添い、心の変容を促すことを目標とする。生徒が卒業後の進路選択を主体的に捉え、社会的に自立することを目指し、教職員が連携、協力して支援に当たる。
- ・不登校を問題行動ととらえず、教育相談担当を中心として職員、SC、SSW、相談員、適応指導教室等が連携し、生徒の気持ちに寄り添い支援する。
- ・月に一度のHSP(ハッピースマイルプラン)、いじめアンケート等を活用して、いじめの防止、早期発見に努め、いじめの対応については、学校いじめ防止基本方針に基づく適切な対応を行う。
- ・いじめが疑われる言動を把握したら、生徒に聞き取りを行い、必要に応じて担任や学年主任を中心にタイミングが遅れることなく、適切な対応をする。
- ・全ての教職員が障害について正しく理解し、それに基づく個に応じた配慮等についての認識を深め、組織的に対応する特別支援教育を推進する。
- ・特別支援COを中心とした教育支援委員会を機能させ、個別の支援計画、指導計画の作成や個別の配慮について全職員へ徹底し、共通理解を図る。

安心・安全で、保護者や地域から信頼される学校

- ・学校経営グランドデザインを年度ごとに改善し活用するために、職員に周知徹底するだけでなく、学校が家庭、地域と連携し、経営方針の共有を図る。
- ・学校の運営情報を学校通信『輝け、朝日!』、学級通信、学校 Web(ホームページ)、学校ブログ、ケーブルテレビ等を活用して発信する。
- ・保護者や地域の思いや願いに、親身になって迅速丁寧に応える。
- ・「自分の身は自分で守る」ということを基本として「自助、共助、公助」へ向けた安全・防災教育を推進する。
- ・生徒の健康・安全面で配慮の必要な生徒を把握し適切な対応をする。
- ・学校でのけがや事故への救急処置や救急体制の迅速かつ適切な対応をする。
- ・登下校時の交通安全、台風や積雪などの自然災害、不審者対応等を家庭、地域や関係機関と連携した取組を推進する。
- ・事故等発生時及び事後には、全教職員が「千代田中学校学校危機管理マニュアル」に基づくのはもちろん、必要に応じてマニュアルを超えてのそれぞれ役割を分担し、生徒の安全確保及び応急手当、心のケア等を実施する。
- ・様々な困難、ストレスの対処方法を身に付けると同時に、精神的に追い込まれ、心に余裕がなくなったときの『SOSの出し方に教育』を実施する。

教育活動を行う教職員の資質向上

- ★教育公務員としての自覚と誇りを持ち、コンプライアンス意識をしっかりと身につける。
- ★生徒の表面だけでなく、多面的、総合的な理解に努め、児童生徒理解を深める。
- ★教職員は、生徒の人権感覚を醸成するだけでなく、自らも高い人権意識を磨いていく。
- ★教員養成指標を活用し、段階に応じたOJTやメンター研修等を通して若手教員等の資質、能力、並びに職能成長を図る。
- ★全教職員でICTを活用した教育活動、校務の情報化、効率化を推進する。



- ★教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの得意分野や専門性を生かして、子どもたちに必要な資質・能力を身につけさせる。
- ★人事評価における自己目標を設定し、自ら学び続ける力、新たな課題に対応する力、チーム学校として発揮する力などを育成する。
- ★働き方改革を意識して能率化を図るが、生徒の成長につながる、真に必要なものは復活し、継続して実施していく。
- ★規律確保行動計画を作成し、全職員で取り組む。また、同僚性を高め、不祥事を起こさせない職場環境づくりを推進する。
- ★適正な事務執行、並びに公金等の適正な管理を徹底する。